

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472700523
法人名	株式会社 スマイル
事業所名	スマイル住まいる三浦
訪問調査日	平成21年1月30日
評価確定日	平成21年3月6日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 2月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	第1472700523号
法人名	株式会社 スマイル
事業所名	スマイル住まいる三浦
所在地	三浦市初声町下宮田字仲田601-7 (電話) 046-887-4660

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵠沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年3月6日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 20日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	16人	常勤 14人	非常勤 2人	常勤換算 14.9人

(2) 建物概要

建物構造	(鉄筋)造り
	3 階建ての 2,3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	360,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (12月20日 現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	2 名		
年齢	平均 82 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大畑医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京急三崎口より2分ほど歩いた所にある、3階建てのビルの2・3階を占めるグループホームです。駅前でありながら静かな住宅地です。静かな新興住宅地です。管理者・職員が話してくれたように、近所を散歩しても近隣の住民は日中働きに出ている人も多く、あまり地域の人と顔を合わす機会がないと言うのがうなずけます。このホームは管理者が最近代わったばかりですので、引継ぎ中の部分もありましたが、管理者・職員からは利用者の気持ちを考えて、それに応えていこうとする前向きな姿勢を感じました。全職員に「私(利用者)が望むこと」のメモを出してもらい、それをもとにケアマネジャーがプランを作成する、等に見て取れます。管理者が一日も早く運営の細部や関係者に慣れて、利用者のケアの向上に活かされることを期待します。法人として、日帰り旅行、1泊旅行を毎年企画し、希望者は楽しんでます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の調査では、実効性のある訓練等の必要性が挙げられていますが、今回の調査では、消防署への通報訓練、避難時間・避難経路の確認等が行われており、改善が確認されました。近所へも避難訓練の際に声を掛けましたが、近所の方の参加がないようですので、管理者・職員の地域との積極的な交流によって、地域の協力が得られるようになることを期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者の入れ替わりが昨年11月にあったばかりであり、自己評価は前任の管理者が記入しました。前回の自己評価、外部評価の報告書が職員や来客の目に触れる場所になく、活かしきれていませんでした。今回の自己評価、外部評価の結果をもとに、管理者・職員で運営について考えてみることも必要と思われます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>新しい管理者の着任後、運営推進会議が1回開かれ、ホームの運営状況を報告しました。会議では職員の入替わりが目立つ点や、ケアの実態について質問が出ました。管理者はこの会議を前向きにとらえて、運営に活かしたいと考えています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議には家族も出席し、意見を言いやすい雰囲気です。家族から医療費やおむつ代の引き落としについて意見をもらい、すぐに改善しました。管理者は、みんなでこの施設を良くしていこうという意欲があり、家族の意見は大歓迎しています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの歴史も浅く、周囲も新興住宅地のせいか自治会、老人会等に加入しておりません。それでも地域から踊り、切り絵等のボランティアに来ていただいたり、施設の避難訓練には近所に声を掛けたりして、徐々に地域と交流を深めています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	2・3階ともに、玄関入口に事業所の理念が掲示してあります。事務所には事業所の理念とは別に、会社の理念が掲示してあります。事業所の理念はこのホーム開設時に、職員一同によって作られたものです。理念の実現に向けて管理者・職員一緒になって取り組んでいます。近いうちに、理念に地域密着を取り込みます。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の入れ替わりがあったばかりではありますが、ケアの実態はほぼ前任者のやり方を受け継いでいます。ホームの理念は唱和をしていますが、それとほぼ内容が同じである会社の理念を唱和しています。「お客様の気持ちを大切に」して日々取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの歴史も浅く、周囲も新興住宅地のせいか自治会、老人会等に参加していません。それでも地域から踊り、切り絵等のボランティアに来ていただいたり、お孫さんの晴れ着を見せに来てくれた近所の方もいます。施設の避難訓練には近所に声を掛けたりして、徐々に地域と交流を深めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者の入れ替わりが昨年11月にあったばかりですが、自己評価は現管理者が記入しました。管理者は自己評価、外部評価の意義は十分に理解していますが、前回の評価の結果報告書は職員や来客の直接目が触れる場所にありませんでした。		前回、今回の外部評価の結果をもとに、職員一同で運営の細部を見直してみることも必要と思われます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新しい管理者の着任後、運営推進会議が1回開かれ、ホームの運営状況を報告しました。会議では職員の入替わりが目立つ点や、ケアの実態について質問が出ました。管理者はこの会議を前向きにとらえて、運営に活かしたいと考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの相談事項もあったり、利用者に生活保護受給者もいたりして、市の担当者とは始終行き来しています。また利用者が入院している病院先に出向いてもらったりして、一緒に課題解決に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月初めに日常の生活の様子、小遣いの明細、健康状態などを郵送しています。転倒などの報告もしています。なかなか来られない遠方の家族に、喜ばれています。面会時にも随時、報告しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は大変率直に話してくれます。たとえば薬代や往診代を預かっていた小遣いから引いていたのを、家族の要望で引き落としにしました。面会時や電話で気軽に話してくれる雰囲気大切にしています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	去年は職員が移り変わりました。退職時の利用者への挨拶は職員個人の意思に任せています。利用者には不安感はなく、新しい職員にすぐ慣れてくれます。現在は職員定着の方向に向かって、管理者中心にがんばっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はあり、出席者は感想記録を提出しています。必須のもの以外は個人の選択に任せており、出欠の個人差があります。入浴の際の露出を少なくする方法やコミュニケーションの取り方等、中身のある研修が企画されています。外部研修の参加者は、ほとんどありません。今後の課題としています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三浦市のグループホーム連絡協議会はあるものの、現管理者はまだ出席はしていません。近いうちに出席し、活動内容を把握したい意向です。内容によっては職員にも出席を促し、同業者との交流を深めていきます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族の都合に合わせた見学や1日～10日の体験入所によって、本人・家族が納得した上でサービスを開始しています。家族によっては、夜遅くまでホームで本人とゆっくり過ごして、徐々に馴染めるように協力してくださる方もいます。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>写真が得意だった人やピアノが上手な入居者など一人ひとりの過去を思い出されるように支援しながら共に楽しみ支えあっています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向や思いを一つ一つ大事にして取り組んでいます。とくに帰宅願望が強い利用者には、ごまかすのではなくゆっくり時間を掛け事実を出来るだけ伝え、その不安を取り除くようにしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員に「私(利用者)が望むこと」のメモを出してもらい、それをもとにケアマネジャーがプランを作成しています。プランには、必要に応じて医療関係者の意見、福祉用具の専門家等の意見も書かれています。家族にも説明し、意見をもらい、プランに反映させています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランは3ヶ月毎に見直しています。また全体会議、フロア別の会議が月に1回開かれており、その席上で利用者の状態を常に見直して、現状に合った計画を作成しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居希望者対象に別料金を設定し、体験入所のサービスをしています。館内に加湿器が配置されていました		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医とは異なる内科のクリニックとメンタルクリニック専門の医師が月に2回訪問してくれるので、順次利用者はその訪問医に切り替えています。訪問医の専門外の眼科・整形外科等のかかりつけ医へは、原則家族が対応していますが、そうでない時には職員が付き添いを行っています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合及び終末期のあり方については、医療にかかわらない範囲で、家族と協力してできるだけ利用者の介助を長く行う方針です。看取りを行ったケースもありますが、対応が出来ない場合がある事を利用者の家族に、口頭で入所契約を締結する際に、あらかじめ説明しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報については、日中は鍵の掛かる事務所内のキャビネットに保管しているほか、職員は定期的に個人情報保護の研修も受けています。また人前での介護やトイレの誘導など、利用者の尊厳を損なうような行為は慎むように厳しく注意しています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お酒やタバコなどは希望する人にはそのように希望に沿っています。買物は周辺に便利な所がないのでホームの車に同乗して行ったり、散歩は下の階と上の階によって違いますが、近所を週1・2回から5・6回歩いたりしています。夕焼けの富士山が見える場所があるので、良くそこまで出かけます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材や献立は業者に委託しています。今のところは利用者の希望を取り入れるまでには至っていませんが、朝はパン食、ご飯食の日を設けています。食の楽しみとして、回転寿司に行ったり、誕生日にその人の希望で外食したりします。配膳や盛り付けの手伝いをする利用者もいます。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日朝から沸かして、希望者は順次入ります。介護度の高い人も浴槽につかり、お風呂を楽しんでいます。週に3回を目安にして、ゆず湯などのお楽しみもあります。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日帰り旅行で浅草に行ったり、1泊旅行を楽しんだりしています。手芸の好きな人は、管理者のズボンを縫い直したり、職員用にかばんを作ってくれます。当日は体操や、ことわざカルタ遊びをしていました。掃除のモップがけをしている利用者もいました。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自立者の多い3階ユニットは、毎日のように富士山を見に散歩に出かけます。近くの河津桜の並木や城ヶ島の水仙を見に行ったりもします。3階のベランダには、鉢植えの花を利用者と職員で植え、外気浴の場になっています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は開いていますが、チャイムがついており職員にわかるようになってきました。居室の鍵は個人の自由で開け閉めしています。非常階段のみ、鍵は閉めています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施しています。1階のキッチンからの出火を想定して、スタッフの役割、通路確認、集合時間を計るなど、記録が残っています。近隣への声かけをしていますが、実際の参加はなく、今後運営推進会議で相談したいと思っています。年に4回予定しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録はあります。昼食事には、食事のほかに1杯のお茶が各自に配膳されていました。一人での食事が困難な人には、適時介助をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階の玄関に椅子を並べて、憩いの場としています。食堂や事務所が見渡せる場所で、みなさんの人気スポットです。各階の幅広い通路の中央にソファとテーブルが置かれ、が憩いの場になっており、家族が面会に来たときの談話コーナーも兼ねています。食堂は日当たりがよく、畳の小上がりもあり、くつろぎの場になっています。車椅子用の広いトイレや洗面台があります。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビや仏壇を入れている人もいます。ピアノが好きな人はオルガンを持ち込み、写真の好きな人の部屋にはカメラ機材があるなど、今までの生活の楽しみを持ち込み、安住の場になっています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スマイル住まいる三浦
(ユニット名)	ユニット うみう
所在地 (県・市町村名)	神奈川県三浦市
記入者名 (管理者)	小杉 一洋
記入日	平成 20 年 12 月 27 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のほか、グループホーム独自の理念を掲げています		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示をしている。 スタッフ全員が理念の実践に向けて取り組んでいけるよう朝礼時の唱和も行っています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに明記し、地域の見学会などでもご説明させていただいています。ご利用者、ご家族には具体的な例を挙げ、ご説明させていただいています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入社時オリエンテーション時や日常の話し合いの中でも指導を実施しています。 買い物、散歩時などに挨拶をさせていただいています。庭のお花をいただいたりする事もあります。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校や地域行事の情報を集め、有効な支援と考えた場合は参加している。消防訓練等にもご近所へ連絡させていただき参加を促させていただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に介護現場見学会の場を提供したり、講習会を行っています		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	話し合いの中で自己評価、外部評価を実施する意義を説明を話し合い、評価を活かした改善に取り組んでいます		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価内容に基づいた取り組みについて報告、話し合いを行っています。意見交換を行った中で更なるサービスの向上実現に向けていけるよう努めています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居時のケース相談をしています。その他三浦市の担当の方にはいつでも相談できる体制を持たせていただいています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会等で学んでいます。必要に応じさらに情報収集や個別の相談に応じていきます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び、常に注意を払い防止を第一に考えてます。常に虐待防止の心がけをスタッフ全員が持てるよう話し合いも行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>行っています。十分に理解されるよう努めて説明している。不安が改善するまで、説明や相談対応をさせていただいています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や不満、苦情があった場合には早急に話し合える環境を持てるよう努力しています。日常の会話の中からも、利用者が伝えたいと思われることを汲み取れるよう努めています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月末に、生活の様子(記録のコピー)やお小遣いの明細を送付しています。その他、健康状態など個別必要に応じて報告させていただいています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の参加を頂いた運営推進会議を実施し話し合いを持たせていただいています。ご意見等お話が合った場合には話し合いを持った上で運営に反映させていただいています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングなどで、意見を集め、必要に応じ反映させています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時や行事など必要時には職員の調整ができています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は必要最小限に抑えています。やむを得ない場合は、ダメージを防ぐため、ご説明したり、支援を引き継ぐなど、個別に対応しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修情報を回覧し、研修参加の機会を設けています。 入社時の研修他、法人内の他サービスや事業所への研修なども適時行っています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三浦市のグループホーム連絡協議会に所属しています。 地域の同業者に相談できる状態にあります。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休みなどの勤務希望を可能な範囲でとりいれ、心身の健康を維持できるよう努めています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務形態に関わらず、全職員がそれぞれの可能な能力のなかで高い意識や向上心を持って働けるように考え努めています		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必要であれば何度でも、連絡や訪問してお話させて頂く機会を持たせて頂いています。不安をできる限り解消していただけるよう努力しています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必要であれば何度でも、連絡や訪問してお話させて頂く機会を持たせて頂いています。 ご家族が求めている事、不安に感じていることをできる限り理解、解消できるよう努力しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議にてGHに入居いただいた場合の課題を話し合っています。相談者様の現在の状況を把握し、必要によっては他のサービスも含め検討し提案もさせて頂く場合もあります。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や必要によっては体験入所を行い、納得いただいた上でサービスを開始させていただいています。ご本人・ご家族の不安をできる限り解消していただけるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話の中にも一緒に生活している同じ立場の関係を築き喜怒哀楽を共有できるよう心がけています。お客様の言葉の中からも常に学ぶ心を持つようにも心がけています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とスタッフ間で必要な情報を共有し、信頼関係を築きあげ共に喜怒哀楽を感じられるよう心がけています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	理解に努めています。それぞれの家族形態にあった一番良い関係が継続できるよう考え支援・計画作成しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴や馴染みの事柄を大切に考え、それらを基にした支援計画を作成し実施しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立することの無い様に、共同作業の場なども設けさせていただいています。利用者同士の関わり合いにおいても必要に応じてスタッフが間に入りよい関係を続けていただけるよう支援させていただいています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係を断ち切らない事を大切に考えています。契約が終了しても、これまでの関わりを活かしたおつきあいをさせて頂き状況にあった関わり合いを継続していきます。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を第一に尊重し支援計画を作成・実施いたします。その際に職員一人一人が入居者の立場になり「私が望んでいること」と考え検討するようにしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント以外にも、気付いたことは都度、ご家族に確認して把握できるようにしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のモニタリングチェック表をつけています。それをもとにケア会議をおこなって、変化や総合的な把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族はもちろんのこと、必要に応じ、医療関係者、用具の専門家、グループホーム以外の介護関係者等の意見を十分に聞き参考に介護計画書を作成しています。計画書のサービス内容にこれら関係者との連携という項目も入っています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状にあった介護計画の作成を関係者と話し合いを持った上で行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のモニタリングチェック表や、個別の生活記録に1日の様子を細かく記入し計画作成に活かしています		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険サービス外で、体験入所のサービスを実施している。面会時間の制限はありません。ご家族にお泊りいただくこともできます。)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	意向や必要性に応じて、いつでもできる限り協力・支援させていただきます。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時にはケアマネジャーや他サービス事業者と相談し最適な支援をできるよう心がけています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	意向、必要性があれば対応する方針です		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時はご家族がかかりつけ医からきちんと、説明を受けられる場を設けています。かかりつけ医とは、常時連絡を取り合う関係が築かれています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタルクリニックからの定期往診があり、必要時にいつでも相談できるシステムになっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期往診により、ご本人やスタッフともなじみの関係を築けています。 また、事業所内に併設されているデイサービスの看護職員との連携もとれています。必要時には、可能な範囲で対応しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際、必要時には介護サマリーを記入します。個人情報に留意しながら状況に応じ、早期退院、その後の対応について関係者と相談しています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、ご家族に今後の医療や生活の意向を相談・確認させて頂いています。リスク等の説明も充分説明した上でご本人、家族の納得を得られるよう対応をしていきます。スタッフにはその経緯と方針に合った対応をさせていただく旨の説明を入所時にしています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要時にはかかりつけ医に相談、カンファレンス参加や意見を求めています。ご本人、ご家族の意向を十分汲み取りつつ、誠実に責任ある対応ができるよう、今できること、できないことを明確にしています		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間でできる限りの話し合いを持たせて頂いてダメージを最小限に防いでいけるよう心がけています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録の保管に気をつけています。他の入居者やご家族の情報を必要以上に伝えないなどの配慮をしています。スタッフ個人情報においても注意を払っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個別計画に、自分の思いが訴えられることを目標の1つとし、傾聴や筆談、ご本人の世界観を大切にすることなどのサービス内容を取りいれているケースが多々あります。自己決定の表出ができる方には、直接確認しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の会話などから、外出・買い物をした希望に添えるよう心がけています。個人個人生活のリズムを大切に、支援させていただいています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望がある方には、美容院の送迎や付添いをおこなっている。可能なかぎり、美容院には外に出かけていくようにしています。外出時に服を選んだり、化粧をすることを楽しんでいただけるようにしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>負担にならぬよう注意しながら、それぞれその時にできる範囲でして頂いています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>希望がある時はお酒を楽しむことも出来ます。買い物へ一緒に行って頂きおやつを自分で購入している方もいらっしゃいます。日々の生活の充実を大切に支援させていただきます。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて、パターンや尿、便意サインを把握し、気持ちよく排泄できるようにしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日湯を沸かし希望に応じ入浴していただいています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠リズムを把握し、日中の活動量の調整や昼寝などで夜間気持ちよく眠れるよう努めています。夜間不眠になられる方がいる場合もありますがご本人の意向を中心に考えながら安心した睡眠をとっていただけるよう支援いたします。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や楽しみを理解し日々の生活の中に取り入れていきます。お料理や手芸、散歩など一人一人にあった楽しみ、気晴らしを支援していきます。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方はご家族了解の上自己管理しています。出来る方には買物時のレジ清算をしていただいたりしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候にもよりますが散歩等による外出を多く取り入れるようにしています。 歩行が厳しいかたはベランダや屋上にでたり、室内でも日の当たる場所や景色の良い場所から楽しんでいただいています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	主に行事として、様々な場所へ外出しています。個別の買物や用足しに他の入居者と同行して外出の機会をつくっている。会社主体でのケア付き旅行を実施し楽しんでいただいています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話をいつでも利用していただけます。TV電話でアメリカにいるお孫さんと定期的にお話される方もいらっしゃいます。自室に電話を設置し、ご家族と直接電話することも可能です。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お部屋以外に、面会できるスペースもあります。心地よく過ごせるようスタッフも配慮しています。他の入居者と関わったり、又は水入らずの時間も大切に考えています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない、という意識が浸透している。拘束の無い支援を事業所として徹底しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないもの、という意識が常識として浸透しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の気持ちを重視しプライバシーに配慮した上で見守り、所在の把握をしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	普通の生活環境を大事にして上で基本的に必要なものは排除いたしません。その環境の中で危険を回避できるような支援を行っていきます。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応のマニュアルがあります。法人でリスクマネジメントの体制が整っており実施し、報告、対策を事業所、法人で共有して事故防止に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全てのスタッフが急変時に対応できるように初期対応等について話し合い、伝達を行っています。また、利用者の現在の身体状況を把握することで対応できるようにしています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的実施するようにしています。		ご近所への参加をよりお願いし、緊急時にご協力いただけるようにしていきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人らしく、いきいきと暮らす。そこにはリスクもあることなど、予測されるリスクについては、適時ご家族に説明している。入居相談時に必ず説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の記録、申し送りを密におこなっています。スタッフ全員が一貫した支援が行えるよう努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の仕分けや、往診の立会いに関わる事でより理解を深めています。またスタッフ全員が確認・周知できる体制をとっています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	まず飲食物で便秘が予防できるよう工夫しています。兆候がでた時はスタッフ間連携をとり継続して水分摂取・体操などで調整できるようにしています		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	必要に応じて支援しています。 訪問歯科による口腔ケアや治療をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェック表に記入し、把握に努めている。変化には速やかに気づくよう努め状態にあった対応を支援しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがある 医師等の指示も仰いでいる。時期的なものや、流行などは、情報を集め予防に努めている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限の徹底、流し調理器具の洗浄もその都度毎日管理している。消毒、手洗いの徹底。入居者にもご理解いただいています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木を植えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、手作りの作品、入居者が選んだものなどを置くようにしています。日常の生活環境を壊さない自然な配慮心がけています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳、椅子などのスペースがあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくこれまでの生活空間と同じ状況になるよう、持ち込み品やベッドの位置などもご家族に相談しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	快適に過ごしていただけるよう温度調整、換気は気をつけて行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子対応可能なトイレを設置してあります。また手すりを廊下を中心に設置し自立方向を出来るだけ行っていただけるように考えています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見守りや一緒に行く家事などしている。帰宅願望などは、家に帰りたい…という当たり前の意思を表現できることとしてとらえている。混乱の原因を考えると共に安心感をもてるような対応を心がけています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上は、洗濯物を干したり、お茶を飲んだり、花火をみたり気分転換に利用している		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スマイル住まいる三浦
(ユニット名)	ユニット やまゆり
所在地 (県・市町村名)	神奈川県三浦市
記入者名 (管理者)	小杉 一洋
記入日	平成 20 年 12 月 27 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のほか、グループホーム独自の理念を掲げています		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示をしている。 スタッフ全員が理念の実践に向けて取り組んでいけるよう朝礼時の唱和も行っています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに明記し、地域の見学会などでもご説明させていただいています。ご利用者、ご家族には具体的な例を挙げ、ご説明させていただいています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入社時オリエンテーション時や日常の話し合いの中でも指導を実施しています。 買い物、散歩時などに挨拶をさせていただいています。庭のお花をいただいたりする事もあります。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校や地域行事の情報を集め、有効な支援と考えた場合は参加している。消防訓練等にもご近所へ連絡させていただき参加を促させていただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に介護現場見学会の場を提供したり、講習会を行っています		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	話し合いの中で自己評価、外部評価を実施する意義を説明を話し合い、評価を活かした改善に取り組んでいます		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価内容に基づいた取り組みについて報告、話し合いを行っています。意見交換を行った中で更なるサービスの向上実現に向けていけるよう努めています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居時のケース相談をしています。その他三浦市の担当の方にはいつでも相談できる体制を持たせていただいています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会等で学んでいます。必要に応じさらに情報収集や個別の相談に応じていきます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び、常に注意を払い防止を第一に考えてます。常に虐待防止の心がけをスタッフ全員が持てるよう話し合いも行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>行っています。十分に理解されるよう努めて説明している。不安が改善するまで、説明や相談対応をさせていただいています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や不満、苦情があった場合には早急に話し合える環境を持てるよう努力しています。日常の会話の中からも、利用者が伝えたいと思われることを汲み取れるよう努めています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月末に、生活の様子(記録のコピー)やお小遣いの明細を送付しています。その他、健康状態など個別必要に応じて報告させていただいています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の参加を頂いた運営推進会議を実施し話し合いを持たせていただいています。ご意見等お話が合った場合には話し合いを持った上で運営に反映させていただいています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングなどで、意見を集め、必要に応じ反映させています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時や行事など必要時には職員の調整ができています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は必要最小限に抑えています。やむを得ない場合は、ダメージを防ぐため、ご説明したり、支援を引き継ぐなど、個別に対応しています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修情報を回覧し、研修参加の機会を設けています。 入社時の研修他、法人内の他サービスや事業所への研修なども適時行っています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三浦市のグループホーム連絡協議会に所属しています。 地域の同業者に相談できる状態にあります。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休みなどの勤務希望を可能な範囲でとりいれ、心身の健康を維持できるよう努めています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務形態に関わらず、全職員がそれぞれの可能な能力のなかで高い意識や向上心を持って働けるように考え努めています		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必要であれば何度でも、連絡や訪問してお話させて頂く機会を持たせて頂いています。不安をできる限り解消していただけるよう努力しています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必要であれば何度でも、連絡や訪問してお話させて頂く機会を持たせて頂いています。 ご家族が求めている事、不安に感じていることをできる限り理解、解消できるよう努力しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議にてGHに入居いただいた場合の課題を話し合っています。相談者様の現在の状況を把握し、必要によっては他のサービスも含め検討し提案もさせて頂く場合もあります。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や必要によっては体験入所を行い、納得いただいた上でサービスを開始させていただいています。ご本人・ご家族の不安をできる限り解消していただけるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話の中にも一緒に生活している同じ立場の関係を築き喜怒哀楽を共有できるよう心がけています。お客様の言葉の中からも常に学ぶ心を持つようにも心がけています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とスタッフ間で必要な情報を共有し、信頼関係を築きあげ共に喜怒哀楽を感じられるよう心がけています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	理解に努めています。それぞれの家族形態にあった一番良い関係が継続できるよう考え支援・計画作成しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴や馴染みの事柄を大切に考え、それらを基にした支援計画を作成し実施しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立することの無い様に、共同作業の場なども設けさせていただいています。利用者同士の関わり合いにおいても必要に応じてスタッフが間に入りよい関係を続けていただけるよう支援させていただいています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係を断ち切らない事を大切に考えています。契約が終了しても、これまでの関わりを活かしたおつきあいをさせて頂き状況にあった関わり合いを継続していきます。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を第一に尊重し支援計画を作成・実施いたします。その際に職員一人一人が入居者の立場になり「私が望んでいること」と考え検討するようにしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント以外にも、気付いたことは都度、ご家族に確認して把握できるようにしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のモニタリングチェック表をつけています。それをもとにケア会議をおこなって、変化や総合的な把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族はもちろんのこと、必要に応じ、医療関係者、用具の専門家、グループホーム以外の介護関係者等の意見を十分に聞き参考に介護計画書を作成しています。計画書のサービス内容にこれら関係者との連携という項目も入っています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状にあった介護計画の作成を関係者と話し合いを持った上で行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のモニタリングチェック表や、個別の生活記録に1日の様子を細かく記入し計画作成に活かしています		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険サービス外で、体験入所のサービスを実施している。面会時間の制限はありません。ご家族にお泊りいただくこともできます。）		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	意向や必要性に応じて、いつでもできる限り協力・支援させていただきます。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時にはケアマネジャーや他サービス事業者と相談し最適な支援をできるよう心がけています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	意向、必要性があれば対応する方針です		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時はご家族がかかりつけ医からきちんと、説明を受けられる場を設けています。かかりつけ医とは、常時連絡を取り合う関係が築かれています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタルクリニックからの定期往診があり、必要時にいつでも相談できるシステムになっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期往診により、ご本人やスタッフともなじみの関係を築けています。 また、事業所内に併設されているデイサービスの看護職員との連携もとれています。必要時には、可能な範囲で対応しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際、必要時には介護サマリーを記入します。個人情報に留意しながら状況に応じ、早期退院、その後の対応について関係者と相談しています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、ご家族に今後の医療や生活の意向を相談・確認させて頂いています。リスク等の説明も充分説明した上でご本人、家族の納得を得られるよう対応をしていきます。スタッフにはその経緯と方針に合った対応をさせていただく旨の説明を入所時にしています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要時にはかかりつけ医に相談、カンファレンス参加や意見を求めています。ご本人、ご家族の意向を十分汲み取りつつ、誠実に責任ある対応ができるよう、今できること、できないことを明確にしています		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間でできる限りの話し合いを持たせて頂いてダメージを最小限に防いでいけるよう心がけています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録の保管に気をつけています。他の入居者やご家族の情報を必要以上に伝えないなどの配慮をしています。スタッフ個人情報においても注意を払っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個別計画に、自分の思いが訴えられることを目標の1つとし、傾聴や筆談、ご本人の世界観を大切にすることなどのサービス内容を取りいれているケースが多々あります。自己決定の表出ができる方には、直接確認しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の会話などから、外出・買い物をした希望に添えるような心がけています。個人個人生活のリズムを大切に、支援させていただいています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望がある方には、美容院の送迎や付添いをおこなっている。可能なかぎり、美容院には外に出かけていくようにしています。外出時に服を選んだり、化粧をすることを楽しんでいただけるようにしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>負担にならぬよう注意しながら、それぞれその時にできる範囲でして頂いています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>希望がある時はお酒を楽しむことも出来ます。買い物へ一緒に行って頂きおやつを自分で購入している方もいらっしゃいます。日々の生活の充実を大切に支援させていただきます。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて、パターンや尿、便意サインを把握し、気持ちよく排泄できるようにしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日湯を沸かし希望に応じ入浴していただいています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠リズムを把握し、日中の活動量の調整や昼寝などで夜間気持ちよく眠れるよう努めています。夜間不眠になられる方がいる場合もありますがご本人の意向を中心に考えながら安心した睡眠をとっていただけるよう支援いたします。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や楽しみを理解し日々の生活の中に取り入れていきます。お料理や手芸、散歩など一人一人にあった楽しみ、気晴らしを支援していきます。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方はご家族了解の上自己管理しています。出来る方には買物時のレジ清算をしていただいたりしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候にもよりますが散歩等による外出を多く取り入れるようにしています。 歩行が厳しいかたはベランダや屋上にでたり、室内でも日の当たる場所や景色の良い場所から楽しんでいただいています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	主に行事として、様々な場所へ外出しています。個別の買物や用足しに他の入居者と同行して外出の機会をつくっています。会社主体でのケア付き旅行を実施し楽しんでいただいています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話をいつでも利用していただけます。TV電話でアメリカにいるお孫さんと定期的にお話される方もいらっしゃいます。自室に電話を設置し、ご家族と直接電話することも可能です。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お部屋以外に、面会できるスペースもあります。心地よく過ごせるようスタッフも配慮しています。他の入居者と関わったり、又は水入らずの時間も大切に考えています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない、という意識が浸透している。拘束の無い支援を事業所として徹底しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないもの、という意識が常識として浸透しています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の気持ちを重視しプライバシーに配慮した上で見守り、所在の把握をしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	普通の生活環境を大事にして上で基本的に必要なものは排除いたしません。その環境の中で危険を回避できるような支援を行っていきます。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応のマニュアルがあります。法人でリスクマネジメントの体制が整っており実施し、報告、対策を事業所、法人で共有して事故防止に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全てのスタッフが急変時に対応できるように初期対応等について話し合い、伝達を行っています。また、利用者の現在の身体状況を把握することで対応できるようにしています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的実施するようにしています。		ご近所への参加をよりお願いし、緊急時にご協力いただけるようにしていきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人らしく、いきいきと暮らす。そこにはリスクもあることなど、予測されるリスクについては、適時ご家族に説明している。入居相談時に必ず説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の記録、申し送りを密におこなっています。スタッフ全員が一貫した支援が行えるよう努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の仕分けや、往診の立会いに関わる事でより理解を深めています。またスタッフ全員が確認・周知できる体制をとっています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	まず飲食物で便秘が予防できるよう工夫しています。兆候がでた時はスタッフ間連携をとり継続して水分摂取・体操などで調整できるようにしています		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	必要に応じて支援しています。訪問歯科による口腔ケアや治療をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェック表に記入し、把握に努めている。変化には速やかに気づくよう努め状態にあった対応を支援しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがある 医師等の指示も仰いでいる。時期的なものや、流行などは、情報を集め予防に努めている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限の徹底、流し調理器具の洗浄もその都度毎日管理している。消毒、手洗いの徹底。入居者にもご理解いただいています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木を植えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、手作りの作品、入居者が選んだものなどを置くようにしています。日常の生活環境を壊さない自然な配慮心がけています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳、椅子などのスペースがあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくこれまでの生活空間と同じ状況になるよう、持ち込み品やベッドの位置などもご家族に相談しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	快適に過ごしていただけるよう温度調整、換気は気をつけて行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子対応可能なトイレを設置してあります。また手すりを廊下を中心に設置し自立方向を出来るだけ行っていただけるように考えています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見守りや一緒に行う家事などしている。帰宅願望などは、家に帰りたい…という当たり前の意思を表現できることとしてとらえている。混乱の原因を考えると共に安心感をもてるような対応を心がけています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上は、洗濯物を干したり、お茶を飲んだり、花火をみたり気分転換に利用している		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)